京城新聞

●税關長會議提出問題

去る十二日迄に税關長會議へ提出せし問題左の如し

一開港々則の制定に關し意見を詳述せられたし

一各税關所屬船舶乘組員の外觀手當に付意見を述べられたし

一監視署を設置を必要とする地方並に其の經濟事情如何

一各關に於ける内國貿易貨物の取扱方を詳述し之が取締をなすの可否に就き討議せられんことを望む

一税關貨物取扱人取締内規實施後に於ける狀況如何

一各關に於ける監視方法を詳述し且つ監視事務上改善を要すべき點を審議せられたし

一關税事務の統一を圖るべき方法に就き審議せられんことを望む

一貿易統計に於て現今の國別表の外本日との出入貨額を日本の通商港別に區別統計するの方法を明年より採用する意見如何

一貿易調査は可成報告を敏速にすると同時に最に頒賜せし調査項目に拘はらず貿易關係並に經濟財政上關税に關する事項は遲滯なく報告に掲記するを望む右に關し意見あらば陳へられたし

一海港檢疫と地方檢疫との區別を明にせられたき件

一税關分課規程港務課の事務中關内及港内一般の衛生に關する事務を掌ると規程しありしは警察署所掌事務と衝突するの嫌あり其の事務の範圍を明にせられたき件

一各國條約を參酌して關税法及定率法を制定せられたき件

一關税所局船舶建物の増加に伴ひ修繕箇所益多きを加ふるを以て税關に工事に關する技手を置かれたき件

一税關官吏賞罰例制定せられたき件

一税關官吏宿直料支給規程を設けられたき件

一關税局に於て關税官吏執務用所要の法規を集め加除訂正の綴込を印刷し配付せられたき件

一關税局に於て税關月報發兌せられたき件

一關税法規違犯者に對する臨檢搜索及び處分の執行を税關官吏に委任せしむるの可否

一韓國人の貿易行爲に對する取締法制定の可否

一捕鯨管理法違犯者取扱手續並に日韓兩國人に共通適用せしむるの可否

一貿易規則違犯に係る罰金は換刑處分に沒收は代價金の追徵すると共に取扱ふの可否

一請願官吏の制を設くるの可否

一港灣の諸設備等に就ては一應所管税關長に諮問し決定の上は其旨を通知せられたき件

一監税官補に服料給與の件

一高等官の配置なき税關に之を配置の件

一棧橋架設等の如き地方的事務は税關長限措置するの件

一税關監吏携帶用の證票制定の件

一新義州税關支署管轄區域改正の件

一監視署出張所派出所等の廳舍内住居監吏に舍宅料給與の件

一官吏雇傭人等に夜勤手當給與の件

一官吏員増加の件

一沿岸貿易整理の件

一大同江上流航行規程廢止と認むる件

一税關長委任事項確定の件

一外國貿易船不開港出入特許の制を設くる件

以上

●新刊紹介

●商業界　依例鮮麗なる寫眞版數葉記事又嶄新にして讀者の眼を喜ばしむ就中「今日の安田善次郎を作りたる寫本太閤記」「予の青年時代に於ける元氣鍛錬の方法」「異郷で奴隷に賣られて以來辛酸を嘗めし處世の教訓」等は宜しく後進者の一讀すべきものなり（一部十五錢、十卷六號東京神田區神保町同文館）

●日本經濟新誌　重要記事としては「謹んで聖詔を捧讀す」「東洋拓殖會社の經營方針に就て」等外數項なり（一部十二錢、四卷三號東京京橋區南紺屋町日本經濟新誌社）

（六十三）　河合柳葉

「だけども、満川は其處で云つたのぢやゆゑ……女が大山を呼んで事情を聞糺して見た

ないか。

「それが宜しうございませう。」

と、女中をして満川を召した、満川は召に應じて早速伺候した。

「お召になりましてございますか。」

と、折目正しく袴を着けて、相變らず頑固さうに身を揣へた。

三輪子は、可笑な爺だと云はぬばかり、些と眉を顰た、

「外の事ぢやないが、お前も薄々知つて居る篤雅が連れ歸つた女の事だがね、私からも手紙を出し、お前からも大山に向けて手紙を出して、女などを連れ歸つてはならないと云つてやりましたけれど、あゝして連れ歸つて來たから、女の樣子を見るとなか〳〵女房なんかをする樣子は見えない

なかつたかも、知れないけれど、私の良心が咎めて然う聞こえたかも知れないと思ふのだ。豊夫の忙しい中で、奥庭の四阿なんかで密會してるのを、心注やうな理はないと思ふからね。何にしてもこれから後は氣を注けた上にも氣を注けないと、壁に耳ある世の中だから、本當に怖いことよ。」

と、三輪子が云へば

「眞個でございます、眞個注意致しませんと、取んだ騷動が起ります、しかし豊夫聞れるやうな事はないと思ひますが、何にしても油斷のならない事でございます。」

致しますると、満川へは貴女樣からお話し下さいませうか、それとも私から話す事に致しませうか、願くば貴女樣からお話し下さるやうにお願ひ申したうございます。」

「では、斯う致さうではないか、誰彼と云はうより今此處へ呼んで二人で話さうでは

が、大きな聲では云はれないが、どうやら側女の樣子なんだ、この事に就いて大山も隨分嚴しく云つたのださうだけれど、天で大山の云ふ事なんか耳にも入れないで、到頭京都に居る間中側に置いて、適度此方へ連れる事になつたんださうな、私も初めて聞いて吃驚たけれど、モウ篤雅が好きで屋敷へ連れ歸つた上は、直に暇を遣はして歸すが宜いと申した處で、容易に暇を出すまいし、又出すにしてからが夫々道を付けて遣らねばならんさ思ふから、まづ歸つた早々事を荒立るよりは、暫時は屋敷のものへは京都の知合の家の娘でも預つたやうに言ひ觸らして、私なりお前なりは知つて知らない振をして、時機を見斗つて道を付けた方が宜からうと思ふて、其事が話したい爲に呼んだのだよ。だが、お前は何と思つて下れる。」

云ひ了つて、大山諸共満川の顔を眺めたが満川は兩手を膝に置いたまゝ、やゝ頭を低れて思案して居たがやがて、頭を仰げるのと共に、

「お言葉ではございまするが、私は知つて知らぬ風も出來なければ、何う遊ばすが宜しうございますとも、早速には申上げかねまする、いづれ篤と愚考致しましたうへ、申上げる事に致しませう」

▲無料紹介欄▼

人事部

●姙婦産婆　〔illegible〕目百廿番戸内務省免許產婆原口都矢（九四）

●齒科醫　〔illegible〕夥多義齒挿入せしも未曾て貴院技術に遠く及ばず其妙々なる口中頓に齊整を迎へ候茲に深く感謝申候　京城齒科醫院御中　東京國民新聞社員山本（九五）

●醉婦三名入用　太平町一丁目田舍家（九三）

●十四五才の小使入用　但身元引受人を要す　氏名在社（八三）

●年二十四調劑の心得あり警院病院の藥生に雇はれたし　姓名在社（百）

●玉突場ゲーム取　十五才より二十才迄男女各一人入用相當の手當を給す　龍山旭橋通原田與吉（九六）

●鹿島縣人石塚正一氏に面會しねし　本町四丁目知人（九七）

●人力車夫至急十五名募集　氏名在社（九一）

●古荷車安價にて讓り受けたし　永樂町一丁目三六二番今福（一〇三）

●雇ひたし　石鹸製造に經驗あるもの至急入用　氏名在社（一〇四）

●呉服商　に多年經驗あるもの雇はれたし年十九　氏名在社（一〇五）

●官衙　の給仕に雇はれたし年十八　氏名在社（一〇六）

●被雇度　豫備役海軍一等機關兵年廿六機械織の運轉取扱に雇はれたし普通學語に通ず給料多きを不望　氏名在社（一〇七）

●鹿兒島縣人有馬氏の住所を問ふ　〔illegible〕（一〇八）

店員入用

●雇入たし　經驗ある者　壽町三丁目〔illegible〕商店（一〇）

●雇れたし　年三十九中等教育有算術會社の受附又は商店の帳場に雇はれたし　氏名在社（一一）

●雇れたし　年廿六身体頑健職業を選ばず相當の家に雇れたし　氏名在社（一二）

●店員入用　保證人ある十六才以上十八才迄の人至急入用（一〇九）

物件部

●望借家　六疊四疊半各一竈突一間並炊事場付の家を借りたし　氏名在社（一〇）

●貸地　空地七十坪ヲンドル九間格安賃貸したし　氏名在社（九〇）

●貸地　旭町一丁目高操風景善き土地四十坪あり御望の御方は下名へ　電話四九四番　韓洋行（九一）

●賣地　本町八丁目通り地所貳百坪八十八間の建家共至急賣却御希望の方は御來談を乞ふ　姓名在社（九二）

●賣地　本町八丁目通り地所四十坪十間建家の儘格安にて至急　姓名在社

●賣地　京仁線富平停車場近所仕上水石落安價にて賣却す希望者は申込あれ　旭町二丁目京城興信所（一〇）

便利の場所にして電話の備もあり官舍八疊四疊五つ間二階貸間あり電話六五に御照會あれ

京城新聞

伊藤公の演說

伊藤公は去る六日夜日韓同志會の招待に應じて一場の演說をせられたり其主意は三十八年の日韓協約締結の顚末より說き起して今日に至る迄の事蹟を略述せられたるに過ぎずと雖も例に依りて乃公の對韓政策は斯の如くなりと暗に誇れるものゝ如し其要點とも見るべきは統監の任務たる責任最も重く微力到底之に當るに足らざるを知ると雖も凡そ事は端緒が緊要なるを以て力の在らん限りを盡して韓國保護の端緒をかんと欲し敢て大命を奉承せり爾來既に三年其間何等爲す所なきも只今日にては三十年來淸國に露國に日本に又は他の歐米諸國に朝には彼に依り夕には此に通じたる韓國をして日本の外他に頼るべきものなきを知らしめたる一事のみと何ぞ夫れ謙讓なる言辭の謙讓に敷演せられたる也爾來三年間何等爲す所なきと何たる謙辭ぞ夫れ三年間には新法令雨の如く降りて制度を新にしたるも指を屈するに遑あらず多數の邦人をして韓國官吏たらしめたると暴徒討伐に一年有半を費したる等其爲せる事は多端なり然れども其爲せる事の果して効蹟ありや否やは素より別問題なり施設されたる分量は多きも實際に効を奏せるものは或は尠きやも知るべからず此點より觀察すれば何等爲す所なしとは或は適當の言辭なるやも知る可からず公にして若し眞に自ら斯く思はゞ事物を洞察するの明識ありと云ふ可し余輩は茲に於て公に忠告せざるを得ず公の方針が誤らずして斷々乎として敢行せしならば三ヶ年の歲月には今日より以上の良成蹟を擧げ得たるべきなり而して公の誇りとなせる日本の外他に頼るべきものを知らしめたる一事のみ云々に至りては全く其觀察を誤れるに非ざる乎韓人等が今尙ほ專心日本に頼るに至らざるの觀あるを余輩は歎ぜざるを得ず彼等の或者は公の面前に於ては全く日本に服從するが如く裝はるゝも內心に於ては反對の感を抱けるなり面從腹背は彼等が數百年來因襲したる特性なり表面悅服の狀を示したり迚之を以て全く日本に專心頼るものとするは誤解の甚だしきものたらむか公の明哲深識なる豈之を知らざるの理あらんや然らば之れ公の外交的辭言なる乎而して公は最後に自分は適當の時期に於て適材に現任務を讓りて大成を期するものなり三年間の事を顧れば世間の毀譽褒貶は意に介せざるも衷心決して滿足せず云々と何ぞ夫れ愈々謙讓なるや公にして全く斯の如く衷心より思はゞ疾くに適材に讓るの得策たるべきなり適當の時期とは如何なるを場合を指すか恐らくは公の功名心を滿足さすべき最好の機會を俟つならむ其處衆心を滿たすに足る効蹟を擧げ得たるの時なる乎若し然りとすれば近き未來に於て之を得ること難事ならん乎然れども公にして心機一轉茲に斷乎たる大活動を起すの決心あらば機會は速に來るべし然らずして從來の如き政策にては寧ろ今日に於て適材に讓るの優れるに若かず之れ帝國の爲にも公自身の爲にも得策たらむ公の性格よりして觀察すれば公は以上の二者共に斷ずること能はざるべし要するに公は前途尙ほ荏苒最好の機會を俟つならん斯の如きは公の爲めに取らざる所なるも公にして英斷せずと云はゞ余輩亦何をか言はむ唯前途の施設を刮視せんのみ

桑港電報

▲新聞記者招待の說

桑港通信にて昨今說をなす者あり日本政府は日本國民の眞相を觀察せんため米國新聞記者百名を招待すと（十二日東京經由）

雜報

●治外法權問題

昨今外務省にれいて大臣次官各局長等凝議を重ね且小村外相が伊藤統監を訪問したりとて頻りに種々の說をなすものあれども右は韓國における治外法權撤去問題に關する打合なりと

●統監の歸任期

伊藤統監は十四日午前大磯を發し興津を經て靜岡に一泊十五日、名古屋一泊、十六日神戶に着し西常盤に投宿拾八日同地を發し二十日又は二十二日馬關より乘船歸任す

●伊藤公の前途

伊藤統監が今春歸朝の際は辭任の意ありて公會の席上にても其意味をほのめかしたりき而して歸朝以來山縣系の祭込策に反撥して急に力味出したる事は當時の紙上にも記したるが最近の情報に依れば公には矢張り辭意なきに非ざるも例の性格によりて最後の機會を俟てるものゝ如く其云ふ處を聞くに實驗上曾禰子を以て已れに代ふるは殆ど不可能なる事情あり韓國に於ける文武の統一は中々困難にして未だ曾禰子に一任する能はず云々亦一說には之等の事に就ては山縣公も桂首相も能く之を諒し伊山桂の間に一種の默契成立し今期議會中は伊公が充分對韓政策の整理をなし其結果を議會に報告して一段落を告げ而して後寺內陸相に後任を托し辭任すべしと果して此說の如く公が山系との默系成立せしや否は疑はし暫く記して今後の成行を見む

●拓殖應募地方別

韓國に於ける東洋拓殖株式會社株式應募の地方別は左の如し但し○印あるものは未だ全部の報告に接せざるものなれば全部報告濟の上は多少の增加あるべし（十三日午前電）

○京城	五八、五〇九	○仁川	一、一一八
○水原	四〇四	○開城	五、二八九
○公州	九〇三	平壤	八七四
海州	二五五	全州	一〇
群山	七八	木浦	五八四
大邱	一、三六八	馬山	五五二
釜山	六二三	元山	七〇
合計	七〇、六三七		

以上は取扱銀行よりの報告を合計したるものにして此の以外に觀察府より報告あるも未だ銀行よりの報告に接せざるもの如左

光州	三六八	咸興	九三五
鏡城	二二〇	合計	四、一四八

尙前記銀行取扱の合計を日韓人に區別せば左の如し

日本人	一七、五八四株	三六三口
韓人	四八、〇五三	五五二
未詳	五、〇〇〇	一
合計	七〇、六三七	九一六

●東洋拓殖株盛況

十二日午前八時二十五分締切拓殖申込株は四百七十九萬二千四百八十九株の見込也

●公果合併の實行

白耳義政府は十一月十六日を以てコンゴー殖民地に於ける其主權行使を開始する旨同國政府より公然の通知に接せりと秋月公使より通知ありと

●英國と日本式銃劍

英國陸軍にては本年度より各軍に日本式銃劍を使用せしむる事となり目下夫々交換中なるが日露戰爭の結果最後の決戰の銃劍突貫にあるを知り急に之れが必要を認めたるが爲なりと

●學部大臣の視察

客月來各地の視察を終へて歸城したる李學部大臣は明十四日正午より學部に於て同部高等官一同に對し視察談をなすと

●銅價益々騰貴

倫敦銅貨は七日暴騰して六十五磅となりしが八日も續いて二志五片方騰貴し六十五磅二志五片となり氣配は手堅き旨入電あり

●馬賊防遏勵行要求

露國公使は東淸鐵道の汽車中に屢々馬賊の害あるにより滿洲の督撫に電訓して之れが防遏法を嚴にせられたき旨外務部に照會したりと

●露國兵の蒙古測量

蒙古に於ける露國哥薩克兵は各地の測量を爲すより徐總督は外務部に警告せしが淸露兩國の國際問題となるべしと傳へらる

●醫學士號の許可

醫學教育社會の一問題たりし各醫學專門學校卒業生に校名付き學士號を許可するの件は文部省に於て久しく調査中なりしが此程漸く其決定を告げ現在の各醫學專門學校に對し何れも四十一年度卒業生より之を附與する事を許可せられたり

●洞民の留任嘆願

十一月八日忠淸南道連山憲兵分遣所長倉富憲兵中尉は太田分遣所長に赴任出發に際し連山邑民及附近各部落の人民は今回倉富中尉の轉任を深く惜み當日早朝より分遣所を距る約二丁太田に通ずる道路上に老若男女約百四五十人及學校生徒等集團し居りて赴任の途次に就くを見るや多數の集團は道路上に塞りて總代とも稱する三名頻に中尉の留任を嘆願して止まず茲を以て中尉は一同に對し懇篤說諭せしも容易に肯ずるの狀なく益々中尉の周圍を取卷きて說諭するも應せず殊に婦人の如きは道路上に各自の腰を卸し居る衿を脫して道路に敷き其上に連坐して其通路を遮り涙を浮べて留任を連呼して止まず又學校生徒の一同は道路上に橫隊に整列して又留任を嘆願して止まざる狀態にして種々懇篤なる說諭も殆んど効なく一歩も進む能はざるより村民に其代表者二三を撰定させ天安分隊に附隨せしめ分隊長の面前に於て留任認可の可否を伺ふより外なしと說示せしに[illegible]二名の代表者[illegible]に隨行して連山を出發せりと

●暴徒討伐彙報

平安北道熙川守備隊中尉以下七名は十一月七日熙川東北方柔院鎭東北二里半にて約十四の賊を討ち二を殪し銃三を鹵獲す△江原道大和分遣所憲兵一補助員二は十一月三日平昌郡內にて約二十五の賊を討ち一名を殪し銃一を鹵獲す△平安南道孟山分遣所憲兵一補助員二は十月三十一日孟山南方約四里にて十余の賊を討ち四名を殪し銃一鹵獲

●警視廳の豫算

警視廳の明年度豫算は本月內部に於て會議を開きたるが新施設新經營の特筆すべき者なく隨て昨年度に比し多大の增加は見ざるべしと

●淸兵韓漁夫を脅迫す

豆滿江對岸警備として派遣中の淸兵武裝なし豆滿江對岸より船にて右岸に渡り目下出漁中の韓人を脅迫し捕鮭を強奪せんとする行爲往々あり十月廿三日午前十時頃武裝せる淸兵五名豆滿江對岸より乘船右岸に漕ぎ着け韓人建網場に來り各漁場に對し捕鮭を差出すべし若し應せざれば船網共に沒收は勿論銃殺なすなど銃に裝塡脅迫しつゝあるとの急報新朝原憲兵分遣所に接し直に上等兵及補助員を出張せしめたるに彼等は早くも姿を見るや直に其場にありたる網を破り鮭三尾を強奪し自ら對岸に漕ぎ着け山中に逃走せり

●草梁經界地

草梁に於ける淸國居留地點に接し釜山の土地所有權者あり過日專管居留地內所有權の確定に付き双方立會を遂げしに淸國領事は反對を唱へ終に兩國間の交渉となり總領事は目下南京に在り協議中の由小松書記官の皈朝用件の內是も其內の主要なるものなりといふ

●海州管內の斷髮

斷髮令の勵行に就ては屢々報導したるが如く各地に於て多少の故障を見つゝある處なるが該令の最も良く行はれあるは海州觀察府の管內にて觀察使張俊文氏は普通韓人と異なりて開明の智識を有し統治の才に富み且つ人民との融和頗る良好なれば斯くは圓滿に行はれつゝあるものなるべしと

●人蔘病に關する講演

韓國政府の囑託を受けて來韓し人蔘の赤腐病に關する研究中なる農商務省技師上田農學士は農商工部在勤有志者の乞により既報の如く昨十二日午後四時より農商工部大臣室に於て其の研究の結果を講演せり聽衆は度支部、觀測所、農商工部の有志者五十餘名にて室內には諸種の人蔘及數の赤腐病細菌培養器、細菌の圖書寫眞參考書等を陳列し學士は先づ人蔘の効能人蔘病研究の沿革及び人蔘病の種類並に各國に於ける同病の狀況及び研究の狀態等を概說し進んで學士が韓國人蔘の赤腐病を研究したる實況を學理的に說明し最後に赤腐病の豫防驅除法及び治療法に關し左の諸方法を實施すべき事を陳べて散會したるは午後六時なりき

一、ホルマリンにて土壤の消毒をなす事
二、二硫化炭素を以て土壤の消毒をなす事
三、病人蔘の輕症なるものはホルマリン又はボルドー液にて赤斑部を除きたるものを殺菌したる畑に移植する事
四、壁蝨の類發生して人蔘根を刺戟し又は病細菌を甚しく傳播する憂ある場合は驅除の方法を講ずる事
五、腐爛の病毒ある地に消毒を施すも尙懸念ある場合は新たに耕地を開く事
六、苗床を作るときは消毒したる河砂を用ふる事

●韓棉走り

韓棉の集散市場たる木浦を去る三里の地點には今尙暴徒出沒せる爲韓棉の出荷思はしからざるも當市韓國棉花會社に到達せる見本は品質頗る優良米棉ミツドリングに優るとも劣ることなく同社にてはグードと同價にて取引せんと欲せるも紡績會社側にては數量の多からざるよりミツドリングより一圓安を唱へ居れりと

●大連大豆々粕の暴落

近來滿洲奧地より大豆豆粕の大連に着荷するもの饒多なる割合に輸出甚だ振はざる結果需要供給の調和を失ひ二圓六十錢臺なりし大豆は今月二日に至り俄然二圓四十八錢の下位を示し豆粕も亦九十二錢と云へる近時稀なる大下落を爲せりと

●三瀛船會社の割戾

仁川に於ける各輸出商と郵商兒の三瀛船會社との間に成立せる割戾期限は本日にて終了するを以て船會社側にては數日前より割戾額の精算從に事し居たるが愈々本日全部精算を終り明日社員をして各契約者を訪問せしめ割戾額を配當したりと更に次期の契約を締結する豫定にて其上更に總會を開き種々今後の方針に就き協議する筈なりと

●漢城衛生會費

漢城衛生會費は漢城財務署より納入告知書を發し現金は農工銀行にて取扱ふ事となり同銀行員は警察署へ出張し來月一日より五日間管內の納入金を受領すと尙日本人側の會費徵收は從前通り民團役所に依賴すと

●安東縣の終航

大坂仁川安東縣の航路船は基隆丸を以て終航とするに決したるは既報の如くなるが同船は一昨日仁川に入港し即日安東縣に向ひたるを以て爾後仁川安東縣間の海路は全く杜絕したるものと思ふべきなり

●損害賠償

仁川寺町及び宮町の商人連署して過日水道局に提出せる鐵管埋設の爲め被りたる損害の賠償を要求せる請願書に對しては未だ何等の回答に接せざる由なるが其筋の意向を聞くに普通二十四時にして鐵管を敷設する事を例とし若し工事請負人の怠慢に依り甚しき遲延を生ずるときは之に依て被らしめたる損害を請負人より支拂はしむる方針にて事實調査の上採否の決を與ふべしと云ふ

●山林局移轉

農商工部山林局及び[illegible]は昨日永樂町なる元陸軍衛戍病院跡に移轉せり

●永濱總長邸の晚餐會

永濱關稅總長は會議の爲め各稅關長の上京中なるを機とし昨十三日度支部大臣次官各局長統監府關係部長書記官等を其の官邸に請し晚餐會を催せりと云ふ

●木內次官の出發見合

本日出發平壤に向ふ筈なりし木內農商工部次官は病氣のため出發を見合せたるが病氣は輕微なる腦加答兒にして全治次第出發すべしと尙次官と同行する筈なりし黑岩礦務局長は本日山田技手を隨へ出發せり

●鶴岡書記官一行出發

全羅南道に出張を命せられたる鶴岡農商工部書記官道家同技師岡同技師の一行は本間九介氏と共に本日出發せり

●足立氏の出發

仁川十八銀行支店長足立瀧二郎氏は愈々明日仁川驛發午前七時二十八分の列車にて任地釜山に出發することに決定したるが同氏は昨日仁川小學校に基本金として金二十五圓を寄附したりと

●平渡書記官出張

平渡內部書記官は晉州地方へ出張を命せられ內藤主事と共に十六日出發す往復十日の豫定

●中牟田技師の出發

中牟田農商工部技師は柳田同技師と共に本日出發江原道に出張せり

●民長の學校巡視

熊谷民長は十二日より十日に涉り各學校幼稚園を巡視して新炎の消毒火災の豫防に關する注意を與へり

●寄附褒賞

大坂府平民島川重兵衛以下廿五名は十月統營尋常小學校修繕費に寄附せしこと奇特に付木杯一組又山口縣士族城邊好太郎以下四十三名は八月淸津日本人會立小學校建築費に寄附せしこと奇特に付木杯一組[illegible]より下賜せらる

●銀盃贈呈

私立仁川慈善會幹事長仁川大谷派本願寺輪番大幸個慧氏は今回鹿兒島に轉任したるを以て仁川民團よりは同氏に銀杯を贈呈したりと

公人私人

▲安田不二丸（統監府技師）十二日入城巴城館
▲光市次（海州財務署財務官）十二日入京不知火旅館
▲石原庫之助（咸興農工銀行支配人）十二日大邱へ向け出發
▲酒井孝德（公州財務監督局事務官）十二日仁川へ向け出發
▲野田益次郎（同局主事）同上
▲古川浩翻（日本會計檢査官）十二日太田へ向け出發
▲淺沼藤吉（東京淺沼商會主）十二日釜山へ向け出發

●近事片々

▲拓殖● 役員も確定す宇佐川將軍の總裁は夙に確定せるも副總裁の撰任に手間取れり
▲吉原● 三郞の副總裁に就ては恐らく行惱み居りしが漸く纏る借周氏は適任なるや否
▲吉原● 氏は吏務の才に長じ居るも大陸經營と云ふ點よりすれば少しく物足らぬ心地
▲倂し● 總裁には抱負もあり經綸もあれば之を補佐して事務を擧るには却て可ならん
▲理事● に本田博士を得たるは喜ぶべし會社の性質より是非農事の深き智識を要す也
▲博士● の溫厚にして篤學なる恐らくは其經營丈に寄與する所頗る大なるものならん乎
▲嶺八● 郞氏に至ては知所るあらざるも聞く處に依れば或場合に此人適任なりと云ふ
▲韓國● 側の副總裁閔泳讚に至ては可もなく不可もなく之が爲に會社に何の輕重なし
▲重役● の撰任は濟みたれども蹟は實に活動すべき役員の人撰なり其撰擇も亦肝要也
▲此役● 員には韓國の事を更に知らざるものにては施設上に支障あるべし人撰困難也
▲統監● 府開設當時の如く韓國の事情を何にも知らざる人がドシ〳〵繰込むは考物也
▲韓國● 創立委員等の注文通りにすれば在韓邦人は取らずして日本より新に運込むべし
▲斯く● ては事情に不案內にて却て韓人間の調和を欠ぐ殊に拓殖經營に於て然りとす
▲獨逸● の如きは殖民地には可成事情に通ずるものを使役するが之が全く適當の所置
▲宋內● 相と一進會副長洪肯燮と頭者類に鬪着を起し爭ひ居たるも漸く和協調べりと
▲其事● 議の何事たるやは知らざるも風說によれば宋氏が權威を嵩に被るが原因也と
▲漢城● 政界の大立物と自ら許す宋氏の權威は近頃すばらしき者ありとは偖々面黑し
▲宋氏● が曾禰子に對する擧動を見て或人は宋氏を大人物と評せるも片々は肯んせず
▲造り● 傲腹や眼先の小智を見て其人を評して眞價を判するは非也須く透徹すべき也
▲公果● 國は白耳義に合併せられ今や之を實行するに至れり白耳義王の成効ならん
▲タ●●フト氏大統領に撰定せらるゝや株式界頓に好況を呈せりヒタ氏の勢力亦偉大也
▲鷗外● 博士藝術院設置の建議書を文部省に呈出せざと事文運の進歩に效果あらむ

可憐の少女

……憂き艱難を嘗む……

夜の寒む風一際身に泌み氷の如き寒月は淋しく地を照らして人通りも稀れに夜は次第に更け行く一昨夜十一時過ぎ愛銅峴通りの往來に十二三の少女シク〳〵と泣き沈み居る様子の如何にも怪し氣なるより折柄通行の巡査言葉優しく聞き質したるに少女は唯ワナ〳〵と身を顫はせ下俯き居るのみ何の答へもせざるにぞ巡査は……やう〳〵少女は口を開き微かに物語りたる一節ぞサテも可憐の極みにこそ

自分は今年十三才李姓名と申すもの……家は至つて貧しく母といふは今より八年以前フトした病ひから彼の世に旅び立ち其の後は父の手一つにて育ちたるが家の暮しは何時迄經つても貧しきより父は三年以前自分をば北署温井洞の李學珠といふものゝ家へ賣り飛ばし其まゝ行衛も知れずなりたるより今は頼る人とてもなく明け暮れ泣きの涙で其の日を送り今日迄辛い奉公をいたし居りしが風の便りに聞けば父といふは南大門外に住まひ居るとかのことを耳にせし故急に逢ひたく思ひ實は昨夜主家を拔け出でゝ南大門外に至り其の附近を尋ね廻りしも唯南大門外とのみにて番戸も知れざれば終に父にめぐり合はず昨夜は人の家の軒下に寢ね今日も朝より尋ね廻りしも如何にしても判らず今夜も又人の軒下に寢るかと思ひてソレで泣き居る次第なりと逐一申し立てしかば警官も同情の涙に咽び少女をば銅峴分署に伴ひ行き今に保護中なり

今様石童丸

……父を慕ふて遙々來る……

愛龍山旭横通りはさる安宿のいぶせき一室に再前より娘の歸宅を待ち詫び居る婦あり さして重き病ひのある身とは思はれざれど色飽迄蒼白く髮さへ亂れて何うやら力なげに痛々しきさまは誰が眼にも身も心も共に憂きに窶るゝ婦とは見られけり婦は幾度か表の窓を押し開きては月影淡く照す彼方の往來をば打眺め「モウ歸りさうなものだが……」と獨りつぶやきもしも途にて迷ひ居りはせずやと頻りに娘の身の上をば氣づかい其所等あたり迄と襟掻き合せ帶締め直し力なき足許を踏み締め踏み締め漸に戸口を出でんとするとき圖らずも娘は向ふより歸り來りたればヤレ安心と共に部屋に入り「マー歸りが大層遅いのでお母さんは心配したが時にお父さんの家は判つたかい……」と娘の顔を覗き込むやうにして問ふ母の言葉の終らぬ中に娘は堪へ兼ねし胸の思にヨウと言葉さへ出でず「お母さん……」と許りに兩の袂に顔に當て聲に伏してヨヽと許りに泣き沈みたり、母も流石に女心のまだ年端も行かぬ吾が娘に斯ばかりの心配を掛けしことの罪深きを思ひては思はずホロリと涙を零ぼし、しばしの間は無言に過ごせしが軈て母は泣き沈む娘の肩に手を當て「泣いて許り居ては話しが解らないぢやないかお父さんに逢つたのかチ……」と優しく言葉を掛くれば娘は涙の下よりやう〳〵顔を擧げ「ハイ逢つて參りました、お父さんが申しますには三年間は父は無いものと思つて呉れ三年後は必ず故郷に錦を飾つて歸るからそれから此のお金はお母さんの藥代にと下されました……」と袂より紙に包みしものを取り出だして母の前にと差し出したり

母は此の娘の言葉を聞きて今更ながら夫を尋ねて朝鮮迄來りしを痛く後悔せしものゝ如く暫時悄然とし深き思に打ち沈み居りしがやゝありて吐息をつき「國へ歸れば那のやうな母に苦しめられ、エ・イッソのこと」と膝を進めて娘をば抱き締めたり（つゞく）

●義州の清人強盗

……日韓人六名重輕傷を負ふ……

本月四日夜一時過ぎ義州威遠三下洞の朴泳章方へ清人強盗二十五名各々銃又は劍等の兇器を携帯して闖入し家人は勿論折柄滯在中なりし日韓人六名に重輕傷を負はせ且つ多數の財物と百六十圓餘の金員を掠奪し悠々として何れへか引き上げたることは當時同地よりの通信に依りて知るを得たれど今詳報に接したれば左に掲ぐることゝすべし 却說前記の朴泳章といふは農家にて附近切つての財産家に加へて名望高く朴泳章とさへ言へば誰知らぬものなき程なるが去る四日は丁度朝鮮の祝ひ日とて家人一同宵の口より酒盛を始め十一時頃寢に就きたりしが軈て裏口の戸をばバリ〳〵と叩き破り同時に二十五名のものゾロ〳〵と房内に闖入しヤツ家人を縛せし後朴弘性外三名の韓人及び當時同家へ所用にて滯在中の日語學校教師福田半七等に威壓を加へし末に重輕傷を負はせし後衣類其他を取交せ價格約二百四五十圓の金品を奪取して引き上げたるが幸ひ同家の主人朴泳章は義州へ旅行中なりし爲め此の厄難を免れたりと之と殆んど同時刻の頃朴泳章宅附近の朴健世方にて火災起りし爲め朴は消火に盡力中の折柄朴泳章宅より逃げ來りたる清人を放火者ならんと認め追尾して之を取押へんとなしたるに清人は所持の兇器にて強かに朴の脊部を刺して重傷を負はせて逸散に逃亡なしたるも集り來れる韓人の爲めに遂に取押へられて亂打を受け氣絶するに至りたり朴健世の負傷は生命危ふしとの事なり

●お靜の丸髷姿

……這んな顔でも奥様になれる……

南山二丁目待合此の花より程遠からぬ所に此の間迄貸家と斜めに貼られた一軒の小意氣な家ありたりソコにツイ二三日前若夫婦らしきものゝ訪れより引き越し來りたるが男といふは三十前後の中肉中背まだ入口に標札の貼られざれば名は何んといふやら知る由なきも察するところ何所かの番頭か手代とも思はるれどサテ女といふが何所かで見覺ゑのある顔なればダン〳〵ソレからソレへの粋人に就て聞き質したる所ソウいはるれば成程ソウとハタと胸に思ひ浮んだも道理此の女こそは元本町八丁目の末松亭に仲居奉公をなし居り中途龍山の某料理屋に住み替へ數多の色餓鬼共を手玉に取りし辣腕猛手の名高きお靜といふ卓上の電話機をとツクリ返へしたやうな手數の掛つた顔付きこは似ても似つかぬ女が何處で何うして這んな小意氣な男と關係を付けたかといふと其は外ではないが男の商賣は元來小間物商にて此迄京城は勿論龍山永登浦と諸所御婦人連の得意先を行商し居る中ある日不圖お靜の奉公し居る料理屋の前を通るとお靜が門口に出でチョイと小間物屋さんリボンを一筋見せてお呉れと男を呼び込み此れはナンボ那れはイクラと値段を問ふ毎にチンコロがクシャミしたやうな眼付きにて色眼を送つたのが本となり終に斯く内縁を結ぶに至りたるとか

●男女出産比例

……長壽者の增加……

母國男女の出産比例は大低女百人に對して男百五人内外の割合なるが、男子は生存競爭の激烈なる爲め精力を消耗すること甚しき故か夭折するもの多く普通六十歳前後迄は男子の方が多數にして六十歳以上になると女子の數が增加する、進んで九十歳乃至百歳になると女子は男女の三倍に達する、因に近年は一般に男女を通じて長壽者の數を增加したるは喜ぶべきの現象なりと某戸籍吏の談

●出稼女の標木

……ツヒ此の間迄旭町の待合住の家に仲居奉公を仕て居つた願島生れの種崎ムメ(三)といふ女あり此の女が素性を察する所其の生みの母といふが風船玉を尻にクヽリ付けて天に上つた夢でも見て生み落したものか八並よりは尻輕く既に國許に居る時分より息が臭くて齒莖だらけの由田清一とかいふドン百姓の倅と夫婦約束をなしトヽの詰り世間の評判となつたので駈け落ちと洒落込み本年五月當地に渡りたるが最初兩人は釜山に上陸し男は鐵道人夫となり女は同地千鳥の酌婦に住み込みて稼ぎ居る中男は病氣の爲め歸國すると稱して女と別れしかば女も今は頼り少なく京城に行けば知る邊もあるからと早速主人に暇をもらひて京城に入り込みしは去る七月の末頃なりき所で女は別にこといつて善き考へも出ざれば口入屋を頼んで前記住の家に住み込みたりしが程經て或る日擽ての情夫清一がノコ〳〵と尋ね來り主人に向つてムメは自分の妹だから今から連れて歸ると無理遣りに承諾させて女をば連れ出し其の足にて南山町の待合此の花にオッ籍め込み四十圓許りの金をセシメて自分は酒と女に耽り居りしが其の中此の花に足繁く通ひ居る統監府の銀筋某なるものがゾッコンウメの婀娜ッぽい容子に惚れ込んで了ひヤレ衣物よ小遣よと貢ぐので女は一方ならず打喜び結局少なからぬ金を絞り取つたので愛等が見切り時とボンと男を袖にし情夫と共に手に手を取つて水原に駈け落ちしたりといふマッこゝ等が朝鮮迄流れ來る女の習ひなるべし

●馬に蹴らる　南部駱駝洞九統楔學甫といふは一昨日午後十一時頃酒に醉ッ拂らつて銅峴通りをヒヨロ〳〵と歩み居りしに折柄向ふより來りし騎馬に突き當り馬蹄に掛けられて負傷せしかば馬上の將校は直ちに馬より下り憲兵隊軍醫部に連れ行きて治療を加へやり金若干を與へたりと

●醉漢の立廻り　一昨日午後二時頃南部亭洞酒屋金連澤方にて中部壽洞統戸不詳朴宗順(三〇)南部亭洞統戸不詳金學洙(三〇)同時洞金道汝(二二)の三人が連澤一人を相手取り大立廻りを爲し居りしが折柄通り掛りし巡廻の巡査之を認め取調たる處原因といふは連澤が宗順より賭博で取つた金の貸しあるを催促したるためなりといふも何れも酩酊し居るを以て說諭して追ひ歸したり

●珍らしきヨボ　西部水鐵里居住金元成なるものは一昨日午後七時龍山街道東幕附近を通りかゝりたる際白米二石の俵入を拾ひたれば其の旨西部警察署へ屆出でたる間もなく所有者詑り出で持ち歸り行きたり

●南山本願寺說教　本日は土曜日に付例の通り午后七時半より說教あり

●基督教青年會講演　本日午後七時より旭町四丁目基督教青年會に於て第四回講演を開會する由演題及辯士は左の如し
未定　藤田軍醫部長
聖書の價値　木原牧師

●平山牧場の繁榮　「開業以來數年實に斯業の元祖なり」とは同牧場の呼號する所なるが啻な單に開業以來年所を經るの久しきのみならず其の設備の完全なる乳質の善良なる衛生の嚴密なる將た營業振りの着實にして而も迅速なる唯に韓國中に於てのみならず恐らく内地多數の都會に於ける牧場に比肩するも敢て遜色を見ざるべし且つ同牧場は凡て改良を旨とし顧客の注意にして可なりと認むべきものあらば何れの點と雖も直ちに改良に躊躇せざるべく返つて種々の注意を歡迎せんことに努め居れりといふ蓋し文明的商人としての雅量は稱歎に値ありと謂ふべく尚近頃は獸醫市岡點一郎氏を招聘し專ら牛乳取締上嚴重なる監督を爲さしむべしといふ要するに斯の如くにして始めて商賣の繁榮を來すべきなり

●天氣豫報（自十三日午後六時至十四日午後六時）

北又は東の風晴後曇り

十三日午前六時各地氣象概況

高氣壓は韓國西部を掩ひ一般に北の風吹き各地天氣晴朗一點の雲を見ず

湯屋番（九）

三遊亭圓遊口演

若「オヤ此りやア何うも御氣の毒樣で全躰誰が盗んだんでげせうなア

男「誰が盗んだんだか分つてる位なら聞やア爲ねへや此ン畜生殴打り付るぜ（ポカ〳〵殴打る）……親方此奴ア何だい

亭「何うも誠に心注ませんで飛んだ事を致しまして御座い升此者は唯今奉公に參つた計りの男でげしてへエ……貴郎の御顔からダラ〳〵血が出て居り升が此男が殴打りまして御座い升か

男「此奴が番臺の上で獨り言を云ひ乍ら踊つて居やがるんで[illegible]見惚ちまつて[illegible]石と間違へて顔を擦つて居たんだ

亭「夫やア何うも御氣の毒で御座いまして早速一ッ調べまして貴郎の御召は御宅へ御届け申す事に致し升……へエ何うも相濟ませんで何卒此品を代りに召て御歸りを願ひ升……何うも御氣の毒樣で……（客は歸る）ヲイ何だつて那んな人にポカ〳〵殴打られたんだい

若「那れは燒餅を燒きましたんで私が女と合乘馬車で出掛るつてへのを聞て大方口惜がつて私を打たんでゲせう

亭「夫やア全躰何處の女です

若「へエ横町の華族のお嬢さんで……是から新葬地へ寺詣りに行んだと申しましたら妾も一緒に連て往て頂戴と云ふからへエ御一緒に參りませうと云ふもんですからお嬢さんが悦んで馬丁に馬車の準備を命令ました仕度の出來る間退屈だつて云ふんで色々な好な物を入方へ誂へました其誂へ物が出來て來る間何か一ッ御唄ひなさいと云ふから私が頻りに唄ひ乍ら踊つて居る處をポカ〳〵殴打ッたんでゲスだから私は驚きました

亭「何だか話しが少とも分らない、袂へ大變御錢が這入つて居り升なア

若「此りやア恐れ入ました餘程クスねましたかな……誠に恐れ入ましたが殿下ナ

亭「殿下つたつて奉公に來た計りの人に然んな事を爲れては大變だ

若「然うでゲスか夫やア然うと美味い物を澤山誂へたが何にも戴かなかつた

亭「近所へ色んな物を誂へたつて云ひなさるが其勘定は誰が爲るんです

若「御案じなさるナ拂ひは先方の女が致し升、（をはり）

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵税一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西部西小門通 電話六六三番